

2016 年度ファイザープログラム
～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援
桑名女性ネットワーク報告書

1. プロジェクトの概要、目的、目標

プロジェクトの概要

様々な立場にある地域の女性達の、想いやアイデア、行動力を集い、個々の活動を推進する地域コミュニティを築く。

シングルマザー達を巻き込んだ、コミュニティ型の自立支援活動、を地域と共に行う。

事務局体制を築き、WEB 改訂（スマホ対応化）と予約管理システム導入することで、定期的な催事をよりスムーズに運営。スタッフの強化を行い、より多くの女性達や地域の人たちが関われる活動を継続し、発展してゆける基盤づくりを行う。

プロジェクトの目的

地域内の潜在的な「スキル」から、女性の活動や自立を推し進める。シングルマザーや技能不足で収入が安定しない女性達へ、スキルアップの場づくり創出。地域の女性達が講師になり、受講生となり、仲間となり、サポーターとなるソーシャルコミュニティ形成を図る。母子家庭＝貧困と位置づけない、シングルマザーのリーダー達を創出、地域モデルケースを生み出す。

本プロジェクトは「少なくなる人口の中で、地域でどのような豊かな生き方が可能か？」を考え、個と個がコラボレーションを進め、地域社会全体を重視した活動を推し進めるものである。

プロジェクトの目標

- ・地域で様々な“活動”する女性達と、地域の女性達をつなげ、女性達が抱える課題・問題を互いにサポートしあえるコミュニティを築く。
 - ・地域の中で小さな経済が廻るしくみを、女性達のネットワークからうみ出す。
 - ・「アイクリエイト」を開催し、女性達が前向きな精神を確立し、自他を尊重し、積極的に地域社会で活動できる基盤を共に築く。
-

3. プロジェクトの成果

1、『学ぶ会』の開催

・地域社会とのつながりが一旦薄れはじめる「中高年世代の女性」達に、繋がりが新たに生まれた。

・地域の女性が講師として登壇することで、身近な女性が自分丈で活動する姿に共感を持ち、自分への可能性も感じられ、つながりから共に経験をシェアする様子が各所に見られた。

→女性には、子育て・介護・更年期と負担が同時多発に起こる時期。社会との繋がりが最も重要である。



2、『ニュースレター』発行

・我々の地道な活動へ共感・共動してくれる地域の方が増えた。

・活動の想いや、「学ぶ会」の案内を、ニュースレターとして発行することで、今まで届かなかった人達、団体、企業へ伝えることができるようになった。



3、「こども食堂」のサポート

「こども食堂」で、女性講師によるクラフト制作やネイル体験など、自分の活動をボランティアに体験してもらうイベントも併設することで、地域の女性達の活動も見え、子ども食堂の多様性もみえ始めた。ボランティアに行われる中での人員を確保が最も難しいが、大学生のボランティアが増え続けている。

○1月～12月の開催において、来場者は約 60 人（スタッフ数別）

写真は、子ども食堂の調理スタッフと、会食の様子



4、『第三回アイクリエイト』の開催

「アイクリエイト」は、経験・技術・得意なことを活かして独自の活動を行う地域の女性・お母さん達が一同に集まり、自らの活動や事業を地域の人達に体験・PRすることで、新しいつながりや、新たな夢や勇気を生み出す参加型のイベントである。

「第三回アイクリエイト」は、これまでの子育て世代をターゲットとした「親子イベント」から、「女性の生き方」をテーマへと発展させ開催した。



来場した多くの女性はブースでの体験やつながりを、ブース出展者達はお互いの活動を通じて、新しい出会いに喜び、刺激を受け、新しいチャンスを感じ、すぐに SNS でつながり人脈化する様子など、社会の変化と、女性の生き方の変化を強く感じた。



域の人達に実感していただきました。



また、参加ブースには、シングルマザー（6名）、障害を持つ方々、命の大切さを伝える活動団体、こども食堂を開催する社会活動団体など、多様な社会問題に立ち向かう女性達に積極的に参加頂き、各々の活動の広報だけでなく体験・体感を通して、地域社会に必要とされている大切なものを地

企画・準備は、多方面で活動する女性達の協力やサポートがあり、開催日は終日イベントに出展した全ての女性達・ボランティアスタッフ含め、約70名によってなされました。

桑名市伊藤市長も視察



実際に来場した女性（大人）の約80%が40代女性でした。

【アイクリエイトから生まれたこと・見えてきたこと】

1、シングルマザーの新しい展開

アイクリエイトで新しい仲間と繋がり、自らの活動に自信を抱いた女性達が、新しい方向性を見出し、新たな道へ踏み出し、リーダーとして立ち上がろうとしている。

cf. 新しい仕事への挑戦を公開したり、市議選へ出たいという声を公開している。

2、「体験型」が求められている。

圧倒的に体験型ブースへの集客が多く、来場者は“体験”を求めて列をなした。

お金にかえられない、「体験の場」「集いの場」が求められている。

3、女性達は常に新しい技術・スキルを習得しようとしている

ブース参加者である女性達の特徴として、複数のスキルで看板を出す人が多かった。

変化の激しい現代では、スキルの価値があつという間にかわってしまう。手持ちのスキルだけでよしとせず、新しいスキルを習得しようとする女性が多い。

身近に「学ぶ場」と「技術を試す場」が必要である。

4、非常に多くの女性が、「私も将来、自ら何かを行いたいと思っている」

来場者（9割が40代）のアンケート回答の中で、「あなたも経験や技能を活かして、何かの活動や事業を行いたいか？」の間に、**138名中、88名**が「将来トライしてみたい」と回答。
非常に多くの女性が、自分も地域の中で、何かの社会活動やスモールビジネスを行いたいと考えている。

【結果】「集いの場」が必要である。

使用に制限の多い公共の施設ではなく、気兼ねなく集まり、学び・交流・食・仕事が行える、「交わりの場」を作り出すことが求められている。

ここで、地域の中に小さな経済が回る仕組みをつくり、「交流の場」を利用する地域の女性達自らが維持継続できる仕組みづくりを行う必要がある。

5、パソコン講習の開催

参加者は2人（シングルマザー）、基礎的な操作から講習。講習への参加費用を『食材』にし、子ども食堂へ寄付した。

今後は、定期的ではなく、要望のあった折に、ボランティアに開催することになった。

4. 当該プロジェクトの今後の目標・見通し・計画・実施方針

●地域の女性達に必要なものは、【集う場づくり】と【個性が響き合う機会づくり】である。

現代社会は、ネットやスマホ等によって人と人が繋がりやすいように見えて、実際は、核家族と共働き世帯の増加、少子化により過剰に与える教育、成果主義の就業に追われ、個々の孤立化が進み、顔と顔を合わせて地域の人と関わる機会が減っている。無関心と閉塞的な地域社会を築いている部分が垣間見える。

今回の事業活動の中で、地域の中のシングルマザー達だけでなく、障害の子供をもつ母達や、病と闘う母達など、様々な社会背景をもつ多くの女性達がつながりあった。

また、40代以降の女性達の多くが、子育て中であり、夫や家族の病気や介護での負担を担っていることも判明。

一様に感じることは、地域社会の中に女性達が気軽に集い、顔と顔を合わせたコミュニケーションを行う機会を増やす必要性である。また、そこには、個々のスキルを活かせる仕組みがなければ継続性が生まれない。

さらに、本活動を通じて、一番の課題となってきたのが、「各々の女性達が心地よく活動できる場、または試験的な活動ができる場所が無い」「気兼ねなく交流しあえる場所がない」「公共の施設は制約が多く本当に使えない」ことである。

桑名市は名古屋のベッドタウンであり、若い世代が流入する新興団地の開発が著しい。一方、旧団地の高齢化と増加する空き家は他地域と同様、社会問題となっている。

その空き家を活用し、女性達が自分の手で、自分達が求めるスペースをつくる。地域の女性がいきいきとした社会生活を実現するための居場所づくりの第一歩とする。

さらに、その集いの場で、女性達が自らのスキルを活かし小さな経済が廻る仕組みを作り、コミュニケーションの活性化、アイデアを生み出す力、チームで目標を達成する力を生み出す。

★今後、2年間 【集う場づくり】と【個性が活き、響き合う機会づくり】 を行う

◎事業内容

空きアパートを活用し、何かの想いを持った女性達が集まり、交流と行動が起こる拠点をつくる。地域の中に、つながることで生み出される「支え合いの精神」を新しい文化として築く。

◎事業方針

- ①女性達の交流拠点となる場所を維持運営するための仕組みを整える。
- ②多くの女性達が、場の存続に常に関わり続けてゆける体制を築く。
- ③1人1人が想い描くビジョンを力強いものにできる場の第一フェーズとし将来拡張を目指す。

◎「アイクリエイト」の開催

様々な社会背景を持つ女性達が、社会の影となるのではなく、自然に表へ立つことができる社会へ。地域の女性達が、自分らしく、どのような豊かな生き方ができるのか。支え合う想いを基盤とし、新しいことへ挑戦し、地域とそこに暮らす人と共に生きる喜びが、働き方と柔軟な生き方から生まれることを考えてゆきたい。